

セミナー用
用途外利用禁止

令和5年度
地域の身近なスポーツの場づくりに関するオンラインセミナー

アリーナビジネスをサービスビジネスへ ～株式会社愛知国際アリーナの挑戦～

株式会社愛知国際アリーナ
2023年12月18日



ウヰムヲ テツヤ 上村 哲也

株式会社愛知国際アリーナ

広報渉外室長

兼

運営・営業部

ベニューマネージメント統括ディレクター

テレビ局の国際スポーツ大会のマーケティングをキャリアのスタートとして、プロ野球球団、リサーチ会社、航空会社、鉄道会社等を経て、ラグビーワールドカップ2019組織委員会マーケティング部長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会広報局ニュースデスクを歴任。

2021年にNTTドコモに入社し、2022年から(株)愛知国際アリーナに出向。運営準備を進めている。

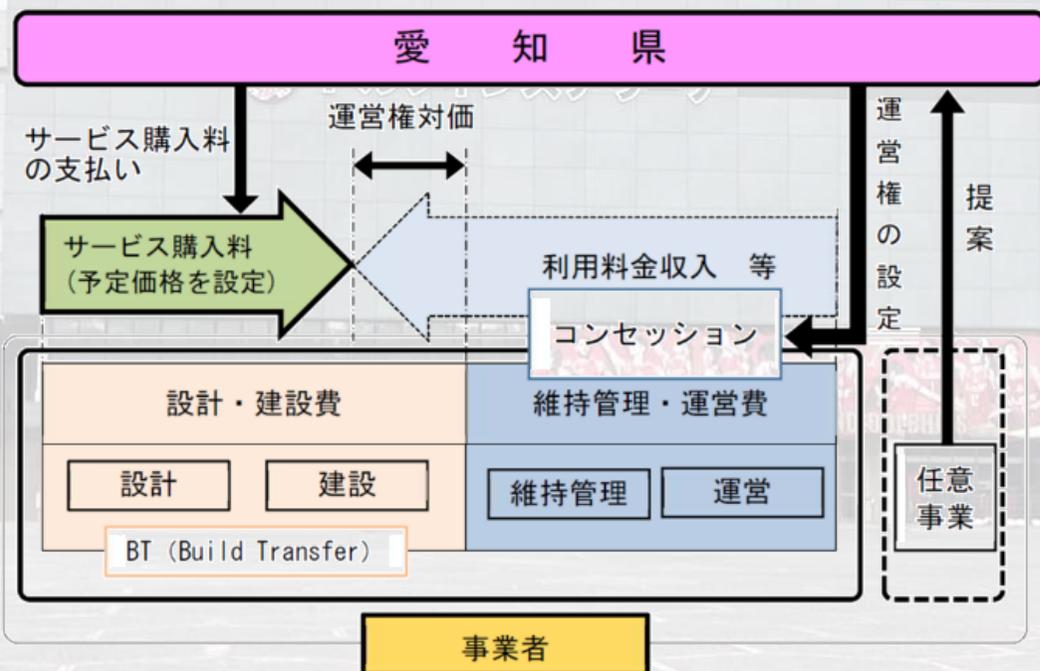
The ARENA beyond Arena



Opening in Summer 2025

2020年12月の振り返り（愛知県）

- 現体育館が老朽化
- アジア競技大会に向けて整備
- BT+コンセッション方式
- 計画コンセプト
 1. 大相撲名古屋場所にふさわしい風格ある施設
 2. ピンポン外交など50年以上の愛知県体育館の歴史を引き継ぐ施設
 3. 全国大会を常時開催できる施設
 4. アジア大会を始めとした国際大会を開催できる施設
 5. 全国レベルのコンサート、イベント、コンベンション等の拠点となる施設



出典：愛知県ウェブサイト（愛知県新体育館整備・運営等事業 実施方針）

これまでのマイルストーン

2017-
2019

・基本計画

2020

・入札

2021

・事業者選定(2021)
・契約 (2021)

2022

・起工式
・工事着工

2023

・指定管理開始



感動・興奮・共感を ここ愛知から。

アリーナビジネスを
館貸からサービスビジネスに。

サービスビジネス化するメリット

イベント数とビジネスの多様化が鍵。
イベント数を増やし、領域を広げることにより
相乗効果が生まれる。

コマーシャル
パートナー

ホスピタリティ

飲食

飲食

施設貸出

施設貸出

これまでの体育館事業

(株)愛知国際アリーナの
事業モデル

GLOBAL

国内外のメンバーとの座組で推進するワールドクラスの設計・運営

SMART

通信会社の運営主幹アリーナによる可変のICT設備とサービス

COMMUNITY

城を望む公園内での地域利用やシン・コミュニティ創出



SPORTS MODE



最大収容 1万7,000人を誇る国内最大級の
ハイブリッドエンターテインメントアリーナ



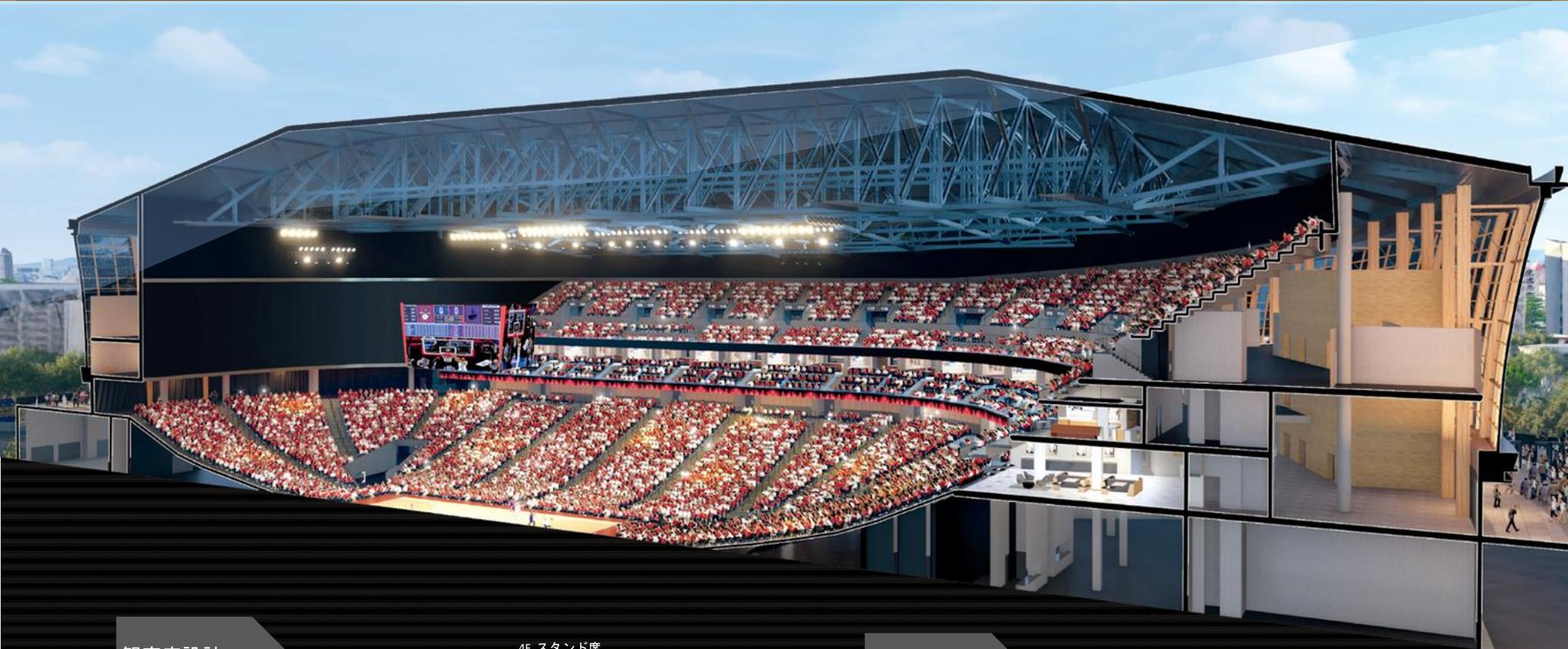
EVENT MODE

面積：

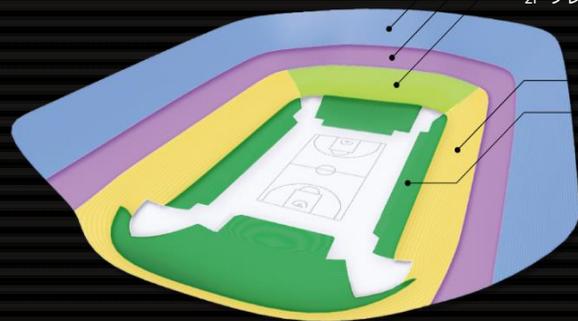
建築面積：約26,500m²

延床面積：約63,000m²





観客席設計

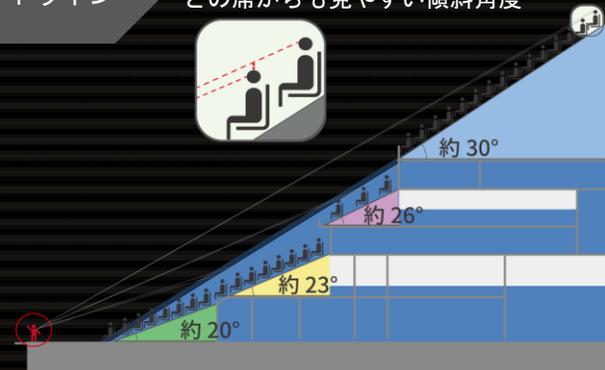


- 4F スタンド席
- 3F スイート
- 2F プレミアムシート

- アリーナ席
- 2F 固定席
- 1F 可動席

サイトライン

どの席からも見やすい傾斜角度



お客様や社員とエンターテインメントを通じた交流ができるプライベートルーム



※イメージには変更が入る可能性があります。

GLOBAL-ホスピタリティサービス 2F

日常に彩を添えたいシーンでの飲食を楽しみながらの新しい観戦・鑑賞体験



※イメージには変更が入る可能性があります。

施設整備段階 代表企業

コンセッション・PPP事業の豊富な経験



運営段階 代表企業

最先端のスマート技術やコンテンツを展開



世界のトップアリーナ運営企業
施設開発～運営・音楽興行等幅広い
エンターテインメント事業を展開



中部を代表するメディア企業
地域企業との連携・調整



高度なホスピタリティノウハウ
街づくり、高級ホテル運営の実績

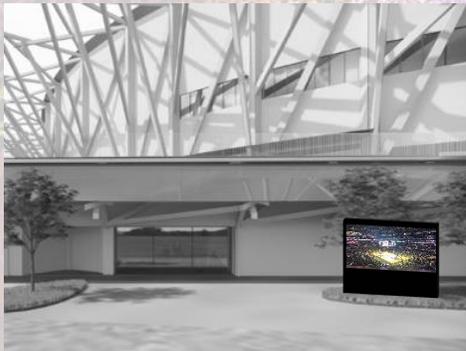


ファイナンスノウハウに加えて
アリーナビジネスや地域連携の知見



ファイナンスノウハウに加えて
アリーナビジネスや地域連携の知見

スムーズな誘導やアップセル、次回公演案内、スポンサーアクティベーションへとつながる館内ディスプレイは国内最大クラスの270枚を予定。
また壁面には3面の大型LEDビジョンを設置。



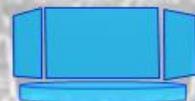
ハイブリッドエンターテインメントアリーナとして、
センターハング、リボンビジョン、音響システム、照明は
国内アリーナトップクラスの装備を選定。



国内アリーナ最大規模
半常設ムービングライト
(合計70台以上)

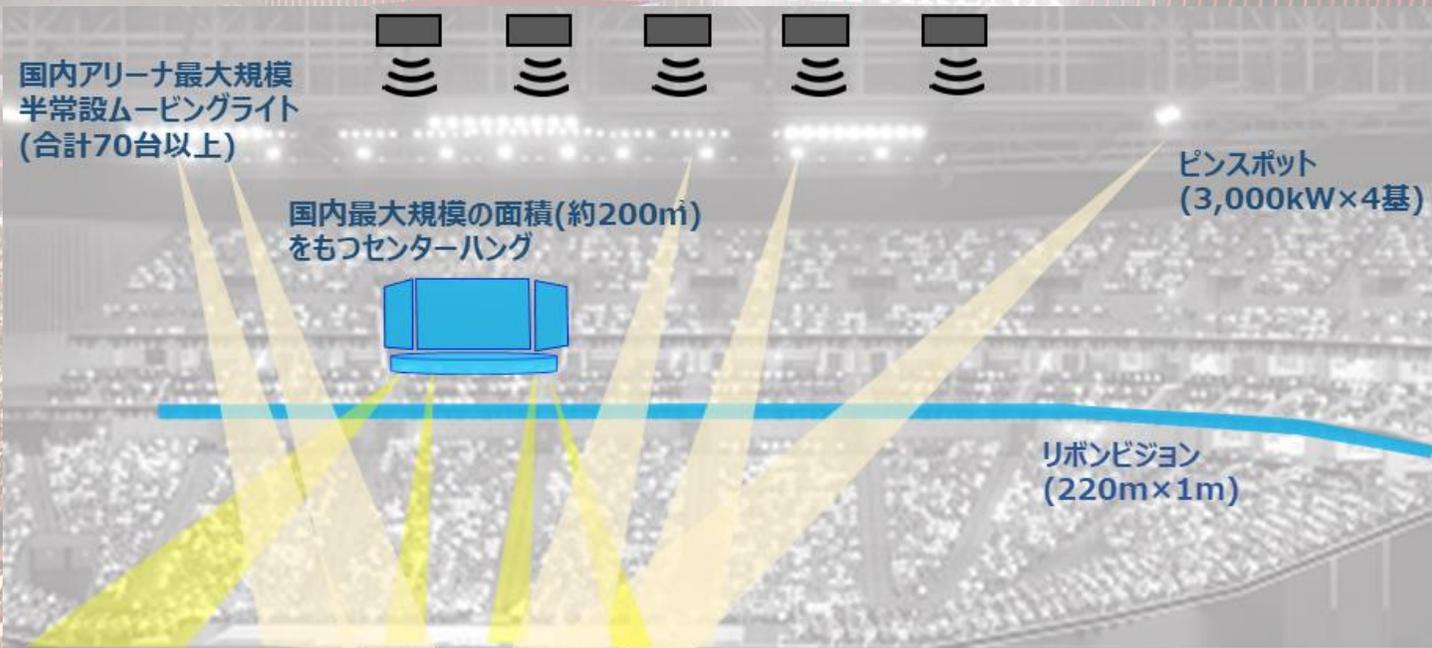


国内最大規模の面積(約200㎡)
をもつセンターハング



ピンスポット
(3,000kW×4基)

リボンビジョン
(220m×1m)



名古屋城を擁する公園とフィットする
歴史と風格に配慮したデザイン。



木々の木漏れ日に包まれる樹形アーチ
が特徴的なアリーナデザインは国内外
で多数の建築を手掛ける隈研吾氏。



※イメージには変更が入る可能性があります。

地域コミュニティでの利用が可能なサブアリーナ



メインアリーナ

サブアリーナ・
多目的ホール

名城公園

アリーナのオープニングにあたって地域のエンターテインメント施設との連携や新たな観光資源の開発にも取り組んでいきます。

エンターテインメント施設 アライアンス

在愛知のエンターテインメント施設と連携の可能性を探り、情報交換から開始し将来的には共同調達でのSDGs やスタッフの交流、イベント連携等を目指します。

観光資源開発

アリーナを楽しんだ後に滞在できるナイトライフエコノミー創出、クルーズ等観光資源、グリーンマルシェの実施などを行政や観光事業者と共に開発していきます。

インバウンド誘致

チケット販売・ウェブサイトの海外対応、キャッシュレス対応、アリーナ内外の外国語対応などインバウンドの利便性にも対応した施設機能を実装していきます。

2024

- ・商業パートナー
- ・アンカーテナント
- ・イベント

2025

- ・アリーナコンテンツ
- ・オープニングイベント

2026

- ・アジア大会
- ・アジアパラ競技大会

2027

- ・3年目～



The ARENA_{beyond} Arena

20

MONTHS TO GO

Aichi International Arena

掲載内容は、2023年冬時点のものです。

画像はイメージです。デザインなどは変更になる場合があります。

©2022 Aichi International Arena